

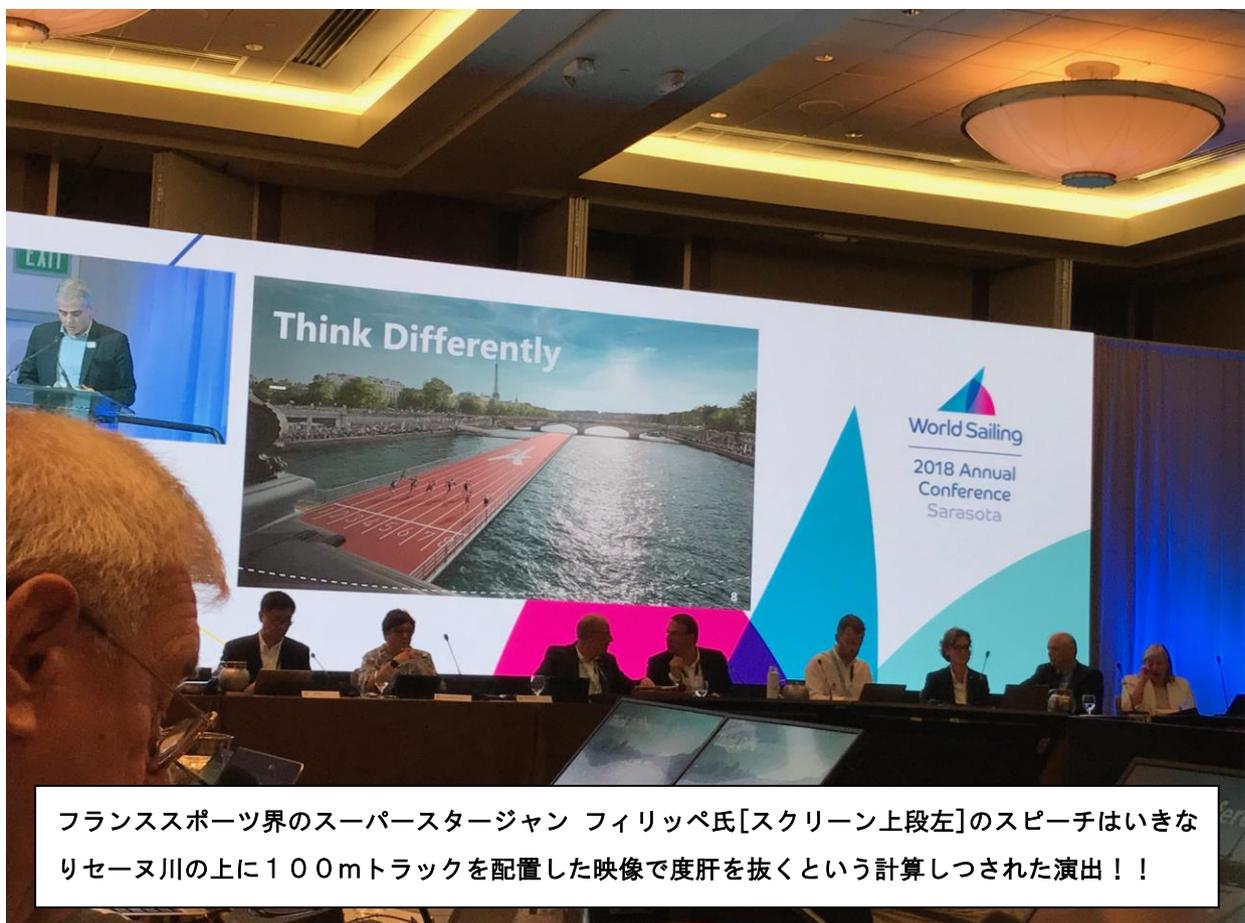
2018年WS(ISAF)年次会議 レポート フランス キールボート(オフショア)への大逆転劇！！

於：サラソタ USA 10/27-11/4, 2018

報告 大谷 たかを (イベント委員、カウンスルメンバー)

5月のミッドイヤー会議での強引残留作戦に成功したフィン級は一人乗り/男女混合という異例の組み合わせを競技としていかに実施するかをうまく見出せず、現在レーザー級が使われている一人乗り男子にフィンを使い、女子はラジアルに代わり軽量女子向けの新艇種を導入し、一人乗り/男女混合はレーザーでという作戦、あるいは男子はフィン、女子は470というハチャメチャな案まで出てきた。一方、大馬力のキールボートでオフショアをショートハンドで昼夜走らせるというエキストリームなセーリングが大人気のフランスは何としてもパリ大会の種目へのとしての採用に向けてWS幹部との綿密なすり合わせを進めて来ていた。

フィンを生き残らせるために導入された「一人乗りディンギー/混合」という種目のレースフォーマットへの魅力的なサブミッションが出てこなかったことに苦慮していたWS執行部は会議直前に「5月の決定を覆してキールボート(オフショア)に変更する」という緊急サブミッションを提出、カウンスル対して会議前日に全員を集めて事前説明をするという念の入れようだった。しかし既に決議された内容を変更するにはカウンスルの3/4の同意票が必要だ。WS執行部は「反対」に回るであろうと思われるカウンスルの多くが懸念している「ユニバーサリティーに関する艇種の変更をしない」という点について、ウインドをRS:X、一人乗りディンギー男女をレーザーとラジアル(ただし独占禁止法関係の問題がクリアになること条件付き)とすることによってカウンスル票の3/4確得を目指した。



フランススポーツ界のスーパースタージャン フィリップ氏[スクリーン上段左]のスピーチはいきなりセーヌ川の上に100mトラックを配置した映像で度肝を抜くという計算しつされた演出！！

さて、カウンスル会議第一日目フランスはアジア勢が圧倒していた時代の卓球競技での銀メダリスト&世界チャンピオンという経歴を持つパリオリンピック組織委員会の統括スポーツマネージャー(なんと大西洋横断レースの経験もあるとのこと)による説得力のあるスピーチと映像で、あっという間に「無理」と思われていた3/4超えのカウンスル票を獲得した。まるでWS執行部の敷いたレッドカーペットの上をスパースターが登場!! あっという間に聴衆を魅了してしまったような印象であった。

しかしキールボート(オフショア)に対するキャンペーン費用の巨大化を懸念する声は強いが、2019年からダブルハンドオフショア男女混合の世界選手権が既に予定されている。各予選は開催地で普及している艇等、主催者が手配しやすい艇種を準備するのでチームは体一つで参加できるので各チームへの負担は少ないと説明しているが、年間を通じてキャンペーンを張っていくためにどれくらいの費用が掛かるのかは想像し難い。当然、本番で使用される艇種を何艇も購入してトレーニングする国が出てくるであろう。詳細は見えていないがディンギーでは表せない「大自然の中でのセーリングというダイナミックさ」を世界に見せていけるというチャンスを是非有効に生かして行って欲しい。

2024 パリ大会種目は

男子ウインド - RS:X	コースレース、スラローム、マラソン
女子ウインド - RS:X	男子と同様
男子一人乗りディンギー - レーザー	コースレース、メダルレース
女子一人乗りディンギー - レーザーラジアル	コースレース、メダルレース
男女混合カイト- 艇種未定	コースレース、リーチングスタート、スラローム
男女混合2人乗りディンギー-艇種未定	コースレース、メダルレース
男子スキッフ- 49er	コースレース、メダルレース
女子スキッフ- 49erFX	コースレース、メダルレース
男女混合2人乗りマルチハル Nacra17	コースレース、メダルレース
男女混合2人乗りキールボートオフショア- 艇種未定	ショートオフショアレース

注1 RS:X とレーザーは2019年初めに行われる新艇種を含む海上トライアル等の再評価の結果による

注2 男女混合カイトはボックスルールによる市販ボード使用

注3 男女混合2人乗りディンギーは470のような艇(選考条件的には470しか当てはまらない)

470級の今後

さて、日本にとっては男女混合とはいえ「お家芸の470級」が東京大会以降も残る(99%確実)となり、ホッとしたところだがセーリングがまだ男女種目に分かれていなかった頃、157cm/54kgと小柄なイギリス女性のキャシーフォスターは男子クルーと組んでロスオリンピック(1984年)に出場、7位の好成績を収めたのは34年前のことだ。それ以降オリンピックでは男子と女子の種目に分かれ、現在に至っているが、日本国内でもインカレを始め男女混合チームは大活躍している。

レースの魅力をさらにグレードアップしオリンピック参加国数を増加して行くことがパリ以降もオリンピック種目に残るための必至の作戦となるので日本から男女混合種目としての470級の魅力を発信していくことが期待される。

その他トピックは各委員会のレポートを参照

以上